奈文研ニュース

No.88 Mar 2023

NABUNKEN NEWS

NARA NATIONAL RESEARCH INSTITUTE for CULTURAL PROPERTIES

独立行政法人　国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577　奈良市二条町2-9-1
https://www.nabunken.go.jp

奈良文化財研究所創立七十周年記念式典を挙行

2022年11月30日、奈良文化財研究所創立七十周年記念式典が馬淵澄夫衆議院議員をはじめ、約150名のご出席を得て、盛大に執りおこなわれました。

はじめに、本中眞所長より、「奈良文化財研究所は法人化により文化財・文化遺産の保存・活用の施策に資する調査研究のナショナルセンターとしての役割を担うこととなりました。今後とも、南都奈良、飛鳥・藤原をはじめとして、全国および世界各地の貴重な文化財・文化遺産の保存・活用に貢献し、そのための人材を積極的に育成するとともに、最高水準の調査研究の成果を皆様にお届けできるよう、取り組んでまいる所存です。」と式辞が述べられました。

続いて、馬淵澄夫衆議院議員より、「奈文研が奈良の地で日本の歴史を紐解く重要な拠点としての活動を続け、深めてこられたことに敬意を表します。私たちは我が国の社会のありようを文化財というものから学ばなければなりません。奈文研が文化財やその研究により、ますます発展、成長をされることを祈念します。」とご祝辞をいただきました。また、都倉俊一文化庁長官、島谷弘幸国立文化財機構理事長、荒井正吾奈良県知事よりご祝辞をいただきました。加えて、奈文研と学術交流を深めてきた中国社会科学院をはじめとする海外機関からのご祝辞や祝電が披露されました。

元職員の工楽善通氏からは、昨年９月に逝去された田中琢元所長の、長きにわたる奈文研事業へのご尽力やお人柄を、ユーモアを交えてお話いただきました。

式典の後半では、所長より、奈文研の組織や調査研究分野の変遷、2018年の新庁舎竣工等、奈文研のこの10年のあゆみを紹介したのち、昨年から所員全員で議論し、取りまとめられた、「奈文研MVS（ミッション、ヴィジョン、ストラテジー）2022」を公表しました。

続いて、研究職員から、最新の研究成果や研究成果の社会還元等、多様な調査研究活動の紹介があり、“奈文研”をご出席の方々にご理解いただく良い機会となりました。

最後に、髙妻洋成副所長より、「保護すべき文化財の種類やその保護のあり方が多様になっており、奈文研が取り組むべき課題も拡がりをもってきています。このたび取りまとめられた奈文研のMVSを通して、総合知をもって文化財を守っていくための調査研究活動に取り組んでまいります。」と閉会の挨拶をおこない、盛会のうちに終了しました。

（研究支援推進部　小野 一代）

本中所長の式辞

工楽善通氏の田中琢元所長への弔辞

発掘調査の概要

石神遺跡東方の調査（飛鳥藤原第212次）

石神遺跡は飛鳥寺の北西に位置し、明治35年・36年（1902・1903）に須弥山石・石人像が発見されたことで著名です。奈良文化財研究所は、昭和56年（1981）から石神遺跡を継続的に発掘調査してきました。その結果、水落遺跡の北の南北約180mの範囲の中に、７世紀を中心とする時期の建物、広場、井戸、石組溝等の施設が計画的に配置されていたことがあきらかとなりました。遺跡は大きく３時期に分かれ、時期ごとに大規模な造成工事や建物の建て替えがおこなわれたこともわかっています。

石神遺跡の内容や性格をさらにあきらかにするため、奈良文化財研究所では昨年度から遺跡の東方の発掘調査に着手しました。昨年度の調査では、石神遺跡第１次調査区の東隣りの水田に東西に細長い調査区を設定し、東西方向に50mほど延びる飛鳥浄御原宮期の掘立柱塀と溝を検出しました。この塀と溝は西から続いており、遺跡の南端に長大な区画施設があったことがわかりました。

今年度は、昨年度と同じ水田の東端に、南北24m、東西14mの調査区を設定しました。そのすぐ南東は、飛鳥寺北面大垣の北門があったと考えられている場所にあたります。昨年度に検出された掘立柱塀と東西溝が東にどこまで続くかを探りつつ、飛鳥寺との関係をも視野に入れて土地利用の実態をあきらかにすることが、今回の調査のねらいです。

発掘調査は2022年12月から開始し、この原稿を執筆している2023年１月現在も調査を継続しています。10年に一度の寒波に見舞われながら遺構検出を進めていますが、調査区内には、昨年度の調査で検出された東西溝に接続するとみられる南北溝が存在することがあきらかとなりつつあります。また、昨年度の調査区と同様に、弥生時代の土坑や古墳時代の竪穴建物等、この地の継続的な土地利用を示す遺構も確認されています。

詳しい調査成果は次号での報告を予定していますので、皆様どうぞご期待ください。

（都城発掘調査部　谷澤 亜里）

調査前状況（南東から、この水田の左奥が昨年度調査区、さらに奥の水田が石神遺跡第１～４次調査区）

調査風景（南東から）

雪に包まれる石神遺跡（南西から）

調査区南端での南北溝検出状況（南から）

左京三条一坊二坪の調査（平城第650次）

奈良文化財研究所では、奈良県からの受託研究で、2022年９月26日から、朱雀門の南東にあたる平城京左京三条一坊二坪の発掘調査をおこないました。調査区は坪の北半に南北25m、東西19m（北区）、坪の南半に南北約10m、東西約21m（南区）の２ヵ所を設定しました。調査面積は合計約685㎡です。

この場所では、奈良県の地域デザイン推進局平城宮跡事業推進室が「平城宮跡歴史公園朱雀大路東側地区（歴史体験学習館）整備計画」（2020年）にもとづき、歴史体験学習館を建設する計画を進めています。この坪は朱雀大路に西辺を接し、周辺では史跡平城京朱雀大路跡の整備に関わる発掘調査や、国土交通省の平城宮いざない館の建設にともなう事前の発掘調査がおこなわれてきました。これらの調査により、坪の西辺と北辺が築地塀で囲われていたことがわかっていますが、坪の中心部分について、まとまった面積の発掘調査をおこなうのは今回が初めてです。

調査の結果、南区では小型の掘立柱建物を検出しました。規模は東西３間、南北３間以上です。柱間寸法は、東西が約1.35m（4.5尺）、南北が約1.65m（5.5尺）。建物内部にも柱穴がある総柱建物で、床張りの建物の可能性も考えられます。これらの柱穴は掘方の平面形状が円形で、大きさも平城宮跡内の発掘調査でみつかる柱穴に比べて小さいものでした。この掘立柱建物の周りには、建物を囲う小穴を検出しました。これらは、建物の建築時や解体時の足場穴、あるいは柵等の可能性が考えられます。ほかにも、小規模な柱穴を多数みつけており、南区の中央付近にも数棟、建物の配置を復元することができそうです。今回の調査成果により、坪の東南部には大規模な建物が展開しない可能性が高まりました。

2023年１月20日には南区の現地見学会を開催し、317名の方々に調査成果をご覧いただきました。当日は寒い中、現地に足をお運びいただきありがとうございました。

１月末には南区の埋め戻しを完了しました。現在は報告書の作成に向けた遺物の整理作業を進めています。

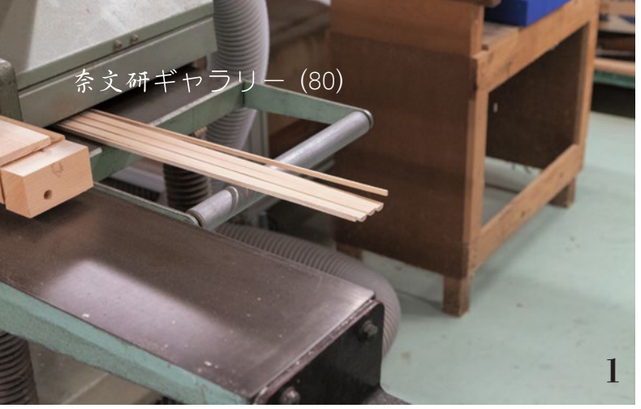
また北区では掘立柱建物や掘立柱塀の柱穴を検出しました。2022年度の調査は終了しましたが、2023年度以降、北区の周囲を拡張し、この坪の北半中央部分の様相をあきらかにするために、調査を再開する予定です。今後の調査にご期待ください。

（都城発掘調査部　浦 蓉子）

南区全景と復元された朱雀門と築地塀（南東から）

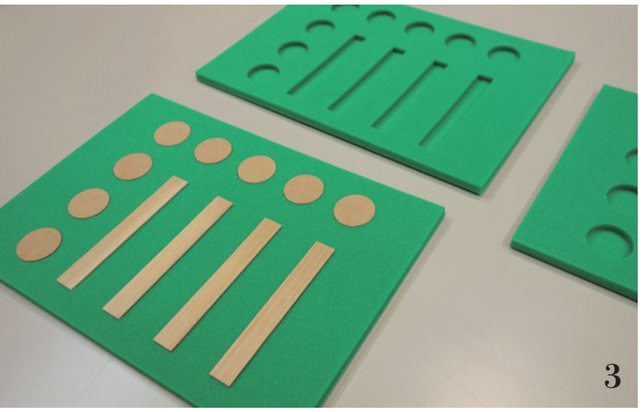
掘立柱建物（北から）

柱の抜取穴から出土した土器（東から）



1

2



3

1. かりうちの名前の由来となる、一面を削った棒「かり」。サイコロの代わりに、「かり」４本を一度に投げて、出た目の数だけ進むことができます。吉野の木工所さんのご協力で、奈良県産のヒノキを材料に使用することができました。

2. 木製のコマを安価に製作するのは、至難の業。現在のかりうちキットのコマには、合板を使用していますが、今後の普及に向けて、ヒノキ材でのコマ試作を進めています。

3. かりやコマを収納することができるウレタンの収納ケースも製作しました。小さなこどもたちでも長く使えるように、という願いが込められています。

協力　：　橋本印刷株式会社、有限会社菊谷木工所、小瀬太平商店、株式会社サカタ企画印刷、株式会社昌和三

よみがえった古代のボードゲーム「かりうち」

奈良文化財研究所では、奈良時代に大流行した盤上遊戯「かりうち」を現代のゲームとしてよみがえらせる「かりうちプロジェクト」に取り組んでいます。昨年11月に販売を開始した、この「かりうちキット」の製作では、研究員がデザインや用具を手作りすることに始まり、奈良県内の印刷会社さんの協力を得ながら試作を繰り返しました。出土遺物からわかる特徴を基本としながらも、現代人の私たちが使いやすい形状、質感にこだわって、最終的なかたちが出来上がりました。

この４月から、国立文化財機構文化財活用センターと協働で、全国の学校団体や博物館等を対象とするアウトリーチプログラム「奈良時代を体験!!よみがえった古代のゲーム「かりうち」で遊ぼう！」が始まります。地元・奈良をはじめ全国各地の多くの方に、「かりうち」を楽しむことを通じて、歴史や遺跡に親しんでいただけることを願っています。

（文化遺産部　高橋 知奈津）

かりうちキット（普及版・キッズ版）

「ひかり拓本」の普及を目指してクラウドファンディングを開催

これまで墨と紙で採られてきた拓本を、光とデジタルカメラで作成する「ひかり拓本」という特許技術があります。研究チーム内でのみ使用してきたこの技術ですが、多くの要望を受け、普及用のスマートフォンアプリ版を開発するため、2022年10月５日から12月２日のおよそ２ヵ月の期間、クラウドファンディングを開催しました。文化財関連の実績が多いREADYFOR株式会社のサービスを通して、目標金額380万円を掲げて開始、開始２日目には目標の50％に到達し、２週間後の10月18日に目標金額に到達しました。そこで教育現場への無償貸与用機材の調達のため500万円を第２目標として設定、これも開始からおよそ１ヵ月後の11月９日に達成しました。残りの１ヵ月は最終目標であるWebサイト構築の構想のみを掲げ、あえて金額目標は設定せず、最終的には359名の方々より653万円のご支援をいただき、無事目標を達成することができました。

本技術は、特に教育現場への普及に力を入れており、クラウドファンディングの期間中から、地元の奈良県立奈良高等学校のSuper Science Highschool事業による授業にも技術協力しています。また、小学校の防災教育の一つとして、生徒が自分たちの手で、災害の記憶を今に伝える自然災害伝承碑を拓本し、そこに書かれている文字を読み、さらに町の古老から過去の災害の話を聞くという取り組みもおこなってきました。今後も、このような活動に参加していただける教育関係者の方々を広く募っております。詳しくは当研究所までご連絡ください。

（埋蔵文化財センター　上椙 英之）

小学生によるひかり拓本アプリの撮影風景

地元中学校生徒による職場体験

８月31日から９月２日に奈良市立田原中学校から１名、12月１日から２日に奈良市立都跡中学校から３名が奈文研平城地区で職場体験をしました。これは、毎年奈良市内の中学生が地域の職場を訪れ、様々な人に出会い、社会で営まれている仕事を体験して、自分の将来について考える事を目的としており奈文研も地域連携の一環として協力しています。令和２年度・３年度は、新型コロナウィルス感染症にかかる社会情勢のため中止となりましたが、今年度は、３年ぶりの実施となりました。

職場体験の内容は、土器の選別・洗浄および接合作業、出土した動物の骨の分析、文化財の写真撮影方法および発掘現場での撮影、木簡の洗浄、資料保存環境のモニタリング、平城宮跡資料館の見学・展示入れ替え作業およびグッズの製作、遺物のＸ線撮影、古代ボードゲーム「かりうち」体験、土馬づくり等を実施しました。ほかの職場では体験できない奈文研ならではの内容を、提供できたのではないかと思います。

この職場体験を通して、奈文研の活動や色々な分野の仕事があることを理解していただいたと思います。また、この体験で歴史に興味を持っていただいて、将来、歴史関係の仕事に就く人が増えることを願います。

この職場体験とは別に、奈良教育大学附属中学校によるバックヤード見学も８月24日に実施し、16名が参加しました。

次年度以降も、たくさんの中学生に奈文研の研究内容を体験していただきたいと思います。

（研究支援推進部　不藤 忠義）

土器の洗浄体験の様子

「木質文化財研究の歩み」の開催

2022年11月26日、奈文研の共催事業として、日本木材学会木質文化財研究会が主催するトークイベント「木質文化財研究の歩み」を、平城宮跡資料館講堂およびオンライン配信によるハイブリッド方式で開催しました。木質文化財研究会は、奈文研の髙妻洋成副所長が初代の代表幹事を務められた研究会で、髙妻副所長が今年度末で定年を迎えられるのを記念したイベントでした。

髙妻副所長による「木質文化財研究の課題と展望」と題した基調講演の後、第１部として「遺跡出土木質遺物の保存科学的研究の眺望」、第２部として「木質科学と文化財研究の交流について」というテーマを設けて、当該分野の専門の方々にご登壇いただいてのトークセッションをおこないました。

第１部では、保存処理の到達点はどこなのか、従来おこなわれてきた保存処理の評価もしくは再設計が必要なのではないか、多大なエネルギーを使う保存処理は、もっとゼロエミッションを意識しないとならないのではないか、といった専門的な熱い議論がなされました。第２部では、会場からの発言も交え、1960年代頃に文化財を扱う方々と林産学を専門とされる方々との交流がどのように始まっていったのかという両者の交流の黎明期に関する話題等、研究史を紐解くようなお話を聞くことができました。

木の文化といわれる日本の木質文化財を、科学的な立場から支える先生方の生の声を聞くことができたイベントになったかと思います。これからも、文化財と木質科学を繋ぐ仲間たちが増えていくような、そんな活動を続けていけたらと思います。

（埋蔵文化財センター　星野 安治）

トークセッションの様子

色々やらせていただきました。

1995年１月17日、阪神・淡路大震災が起きました。当時、私は京都造形芸術大学で専任講師をしており、文化財レスキューのために設置された尼崎の現地事務所に通ったことを思い出します。奈文研に入所したのは同年の12月１日、埋蔵文化財センター遺物処理研究室研究員となり、同時に平城宮跡発掘調査部考古第一調査室も併任しました。発掘調査は全くの素人、当時、現場を一緒にやった皆さんには色々とご迷惑をおかけしつつ、なぜかどこかで楽しんでいる自分がいたように思います。すみません。

学生時代は林産工学を専攻し、元々は木製遺物の保存をやりたくてこの世界に入ったのですが、奈文研では、木材だけではなく金属、石、土、漆等々、出土してくる色々な材質の遺物の調査分析と保存処理、発掘現場対応をやらせていただきました。失敗もたくさんしましたが、文化財に対する視野が大きく広がっていったことも実感としてあります。

奈文研で過ごした27年と４ヵ月の間には、COE事業、高松塚古墳壁画の劣化と石室解体、キトラ古墳壁画の発見と保存、イースター島モアイ像の保存処理、京大客員講座、東日本大震災における文化財レスキュー、文化財防災ネットワーク推進事業等、様々な事業に携わらせていただきました。多くの方にお世話になりましたことを感謝申し上げます。

2020年10月１日、文化財防災センターが設立されました。2023年３月で定年を迎えますが、今後は、文化財防災をライフワークとして、文化財の保護に微力ながらもつくしていきたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

（副所長　髙妻 洋成）

若かりし日の現場風景

令和５年度　飛鳥資料館ミニ展示
「長法寺十三重石塔内に納められた押出三尊仏像と御正体」

1979年に橿原市一町の浄国寺境内に所在する十三重石塔の修理中に発見された、長法寺（現在は浄国寺と合併して廃寺）の押出三尊仏像と御正体（円鏡）を展示します。押出三尊仏像は白鳳期のものと推定され、中尊が倚座像の如来三尊像です。御正体は鎌倉時代と考えられる銅製の円鏡の鏡面に、左手に宝珠を持つ地蔵菩薩が毛彫りで表現されています。柱等に掛けられるよう、裏面には金具が付いています。普段見慣れた、立体的な仏像とは違う信仰の対象をご覧ください。

また、夏期企画展の写真コンテストの応募作品も募集しています。令和５年度のテーマは「飛鳥のくらし」です。「くらし」の情景を写した、とっておきの写真をお待ちしております。詳細はホームページをご覧ください。　（飛鳥資料館　清野 陽一）

ミニ展示会期：2023年４月21日（金）～５月21日（日）
開館時間：９：00～16：30（入館は16：00まで）／休館日：月曜日
ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/asuka/　お問合せ：☎0744-54-3561

平城宮跡資料館　展示紹介「天平衣装の人形」

平城宮跡資料館の常設展示、宮殿復原展示コーナーでは、きらびやかな天平衣装をまとった４体の人形が皆さんを出迎えています。これらの人形は奈文研が1990年代に製作したもので、資料館では2001年の発掘速報展でお披露目されました。女官のスカートのような「裳」や顔を隠す「さしぬ」等、特徴的なファッションを間近で観察することができます。

奈文研では長年の調査成果を活かし、古代の人々の暮らしをより身近に体感できるよう、建物の復原や衣食住、儀式、遊び等の再現に取り組んでいます。天平衣装もその一つで、2010年の遷都1300年祭を契機に披露される機会も増えました。様々なイベント等で目にした方も多いでしょう。同コーナーでは、ほかにも出土品や正倉院宝物を参考に復原した調度品を多数展示し、天皇の内裏における食事や遊びといった生活の空間を再現しています。ぜひ、華やかな宮中での暮らしを想像しながらご観覧ください。　（企画調整部　下山 千尋）

開館時間：９：00～16：30（入館は16：00まで）／休館日：月曜日（休日の場合は翌平日）
ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/　お問合せ：☎0742-30-6753（連携推進課）

■　記　録

文化財担当者研修

○報告書編集基礎課程
12月５日～12月９日　14名

○報告書デジタル作成課程
12月12日～12月16日　10名

○史跡等保存活用計画策定課程
１月17日～１月23日　12名

○文化的景観調査計画課程
１月30日～２月３日　３名

○文化財三次元計測入門課程
１月17日～１月19日　20名

飛鳥資料館　秋期特別展

「飛鳥美人　高松塚古墳の魅力」
10月21日（金）～12月18日（日）　7,280名

飛鳥資料館　冬期企画展

「飛鳥の考古学2022」
１月20日（金）～３月12日（日）　3,360名

平城宮いざない館　展覧会

「のこった奇跡　のこした軌跡
―未来につなぐ平城宮跡―」
10月29日（土）～12月11日（日）　36,339名

第26回古代官衙・集落研究集会

12月16日（金）・17日（土）　会場参加　68名
オンライン参加　118名

第22回古代瓦研究会シンポジウム

２月４日（土）・５日（日）
会場・オンライン参加　282名

現地見学会

○平城第650次調査（平城京左京三条一坊二坪）
１月20日（金）　317名

編集　「奈文研ニュース」編集委員会
発行　奈良文化財研究所　https://www.nabunken.go.jp
Ｅメール　koho_nabunken@nich.go.jp
発行年月　2023年３月